



「笹川杯作文コンクール2012」～中国語で応募～ 第5回（10月分）優秀賞作品

※原文に忠実に和訳しました。

※個人名の掲載については、本人の承諾を得ています。

原子力発電を放棄して、よりよい暮らしを

広西省 凌莉

2011年3月11日、日本の東方沖でマグニチュード9.0の大地震が発生し、巨大な津波を誘発した。そして福島原子力発電所が損傷を受け、大量の放射性物質が漏れ出した。度重なる災害に、日本は未曾有の重傷を負った。

地震や津波より、放射性物質拡散の方が深刻なようである。より破壊力があり、長く影響し、広く拡散している。こうした災害を修復する人々の能力は限られている。環境の自浄にはとても長い時間がかかる。放射性物質の拡散による人類、そして全ての生物への災害は耐えがたいものであると認めざるを得ない。

しかし、この事故は人類が自ら招いたものである。先進技術、経済発展、そして「より強大な」国を追求した代償は非常に重い。後世や依って立つ土地、ひいては地球全体まで犠牲にしてしまった。

建物は倒壊しても再建できるし、洪水もいつかは引く。人々には、ぼろぼろになった郷土を前に、街を再建する信念も能力もある。しかし、放射能漏れはいったん事故が起きてしまったら、そう簡単には收拾がつかないのだ。放射能災害により、人々は（以後、何代かの人々も）かつて暮らしていた土地に近づくことはできない。そこに関わる仕事、記憶、夢、希望も全て、その時、そうして消えてしまうのである。

経済発展と「より強大な」国のために、これほど重い代償が必要なのだろうか。その価値があるのだろうか。

人類発展のためには、自然のルールを理解し遵守すべきであり、自然のルールに合わせて生活をするべきなのである。人の力や知恵が大自然をいくらか変えることはできるが、如何なる変更も自然のルールに背くべきではないのだ。人類は自然界における1つの種に過ぎない。より便利で快適な生活のために、自然の生態系を破壊して他の種の生物が生存する環境を奪ってはならないのだ。人類は既にそうした行為をし過ぎてしまった。例えば、より便利な生活のため自動車を作ったことで、大量の排気ガスにより炭素の排出量が上昇した。温室効果もたらされて、氷河は解け、海面は上昇し、島が水没した。日を追って深刻になる地球温暖化問題も解決できていない時、依って立つ土地が減り続ける状況にありながら、放射性物質が漏れ出したことで、元々の街が生存不能な土地になってしまっている。これは人類が自ら招いた最大の悲しみであると言わざるを得ない。

福島原発事故による結果が深刻でないなどとは言えない。原発周辺の住民が大量に避難し、今でも避難所で暮らす被災者は多い。放射能の影響で日本を訪れる観光客が激減しており、中国からの観光客に限っては70%も減少した。大量の放射性物質が海中に流出し、汚染度が確定できないことにより、食の安全が不安視されている。また、日本の農産物や水産物の輸出にも深刻な影響が出た。人体が放射能に汚染されると、DNAの改変を招くことすらあるという。放射性物質が食物に入るのを避けるため、日本政府は大量のヒトやモノを費やしているが、まだ植生、空気、土壌、水源が受けた放射能汚染の挽回までには至っていない。さらには反原発の声の高まりによって、日本の政局の流動化が加速した。

戦争中に使用された核弾頭であれ、平和な時期に利用される原子力発電であれ、人類の記憶として最も深く刻まれているのは災害だけだろう。

現在の人類の能力では、原子力を日常生活で使いこなすことがまだできてはいない。メリット・デメリットを考慮すると、私達は原子力発電を放棄すべきなのである。核の威力に屈したためではなく、自然のルールに順応する

ために。経済を発展させること自体は間違いではないが、原子力発電だけがクリーンエネルギーではない。人類はより良い方法を探して、郷里を大事にして災害から救うこと、つまり私達の後世を救うべきなのである。なぜなら、最終的な目標は、より良く人類が発展できる世界であり、後の世代を他の種の生物たちとともに素晴らしい環境で生活させることなのだから。

原子力発電を放棄しよう。原子力発電が無くなれば、きっと人類の生活は、もっと安定して幸福なものになる。